

## 学校教育自己診断の結果分析と課題について

大阪府立思斉支援学校

### 1. 分析(別紙結果参照)

A(よくあてはまる)B(ややあてはまる)を肯定的回答、  
C(あまりあてはまらない)D(あてはまらない)を否定的回答としてとらえた。

- ・保護者は肯定的回答85%以上に黄色マーカー、否定的回答15%以上に青色マーカー  
前年比で5%以上アップした項目を□で囲み
- ・児童生徒は肯定的回答80%以上に黄色マーカー、否定的回答20%以上に青色マーカー  
前年比で5%以上アップした項目を□で囲み
- ・教職員は肯定的回答90%以上に黄色マーカー、否定的回答15%以上に青色マーカー  
前年比で10%以上アップした項目を□で囲み

それぞれの課題の項目を見つけ出しやすいように、黄色・青色マーカー(肯定的・否定的意見)と□で囲み(前年度比よりアップ)のパーセントの数値の調整を行った。

#### <保護者> 回収率70.1%(前年度72.6%)

- ・全26項目中19項目が、肯定的回答85%以上の回答であった。昨年度は否定的回答20%で設定をして0項目だったため、今年度は15%に引き下げたが0項目であった。
- ・昨年度の肯定的回答80%以下は4項目あったが、今年度の肯定的回答80%以下は1項目と改善傾向にあり、全体としては概ね高評価を得た。
- ・項目26では、肯定的回答85%以上には至らなかったが、昨年度から肯定的回答が29%アップしている。

#### <児童生徒> 回収率69.2%(前年度69.6%)

- ・全23項目中13項目が、肯定的回答80%以上の回答であった。否定的回答20%以上の項目は4項目(昨年度4項目)で、前年より項目を6項目増やしたが前年度と同じであった。
- ・昨年度より保護者アンケートとともに保護者(家庭)へ配付しての回答と変更したため、回収率は減少したままだが、結果としては児童生徒・保護者の現状が現れていると考えられる。(一昨年度は対象者のみ学校で実施のため100%)
- ・否定的回答の3項目(項目9・10・16)は、前年と同項目でいずれも増加傾向にあるため、継続的な課題である。項目19は今年度より新たに増えた項目であるが、否定的回答が33%となっているため、新たな課題ととらえる。
- ・交流に関する項目(項目15)は、前年度は否定的回答が24%から今年度は10%まで減少している。また、前年比で5%以上アップした項目が前年度1項目であったが、今年度は11項目と大きく増加しており、全体としては改善傾向にある。

#### <教職員> 回収率100%(前年度100%)

- ・全39項目中21項目が、肯定的回答90%以上の回答であった。(前年度7項目)否定的回答

20%以上の項目が3項目で前年度の否定的回答20%以上は16項目だったため、大幅に改善傾向にある。

- ・今年度重点課題としていた防災教育に関する項目(項目14)は肯定的回答が18%上昇しており、重点課題として分掌で取り組まれたことが結果として表れている。今回は肯定的回答84%であったので、肯定的回答90%以上を目指して次年度以降も定着が望まれる。
- ・学校運営に関する項目(項目17)は組織としての取り組みが、伝達講習に関する項目(項目28)と初任者に関する項目(項目29)ともに今年度の具体的な取り組みの結果により肯定的回答が20%以上アップとして表れている。
- ・前年比で10%以上アップした項目が前年度6項目であったが、今年度は22項目と大きく増加しており、全体としては大きく改善傾向にある。
- ・否定的回答20%以上(項目17・18・19)に関してはいずれも10%以上改善傾向にあるが、依然として継続的な課題がある。
- ・ヒヤリハットに関する項目(項目13)のみが、肯定的回答が前年度より5%ダウンと減少傾向にある。

## 2. 次年度の重点課題

①ヒヤリハット報告が共有され、学校の諸活動において安全指導が徹底している。

学校経営計画中期的目標「安心安全な学校生活を送る体制をつくる」

(2)児童生徒の生命・健康を守る。※危機管理体制(感染症対策を含む)を充実させ、緊急時における児童生徒の安心安全を確保し、教育活動の継続を図る。  
を受け重点課題とする。

②各分掌や各学部、学年間の連携が円滑に行われ、うまく機能している。

否定的回答20%以上の項目として例年課題にあげられており、令和3年度から令和6年度にかけて否定的回答が20%ダウン(令和5年度から令和6年度は10%ダウン)しているが依然として課題となっている。組織全体で取り組み、大幅な改善に向けて重点課題とする。